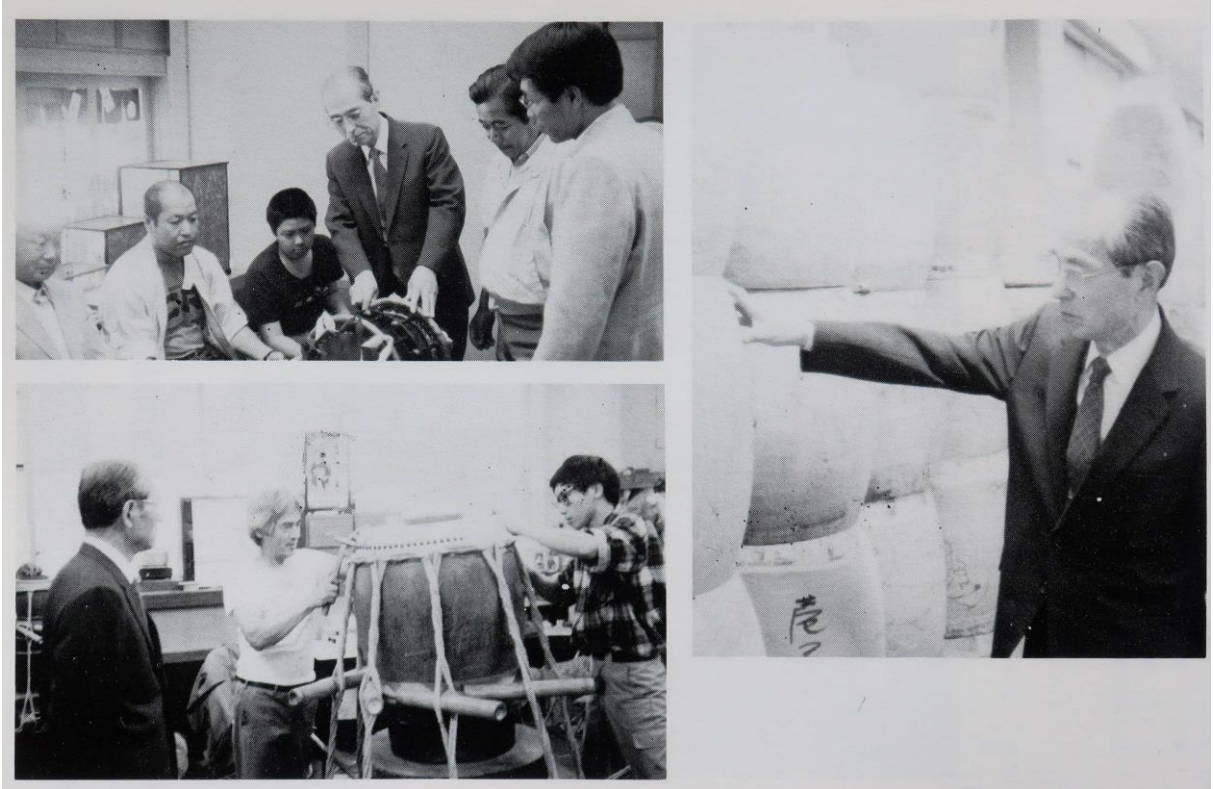


商品の価値を認められてこそ、 商取引は成立する^(※1)

中第 31 回卒 宮本 孝太郎^(※2)

● 宮本卯之助商店



- ・昭和 8 (1933) 年 3 月 9 日 旧制相馬中学校卒業
- ・昭和 8 (1933) 年 3 月 14 日 宮本卯之助商店に入社
- ・昭和 13 (1938) 年 1 月 仙山野砲隊入隊、同年 3 月中国西北部「ハイラル」に転属
- ・昭和 16 (1941) 年 3 月 召集解除となり、引き続き、宮本卯之助商店に勤務
- ・昭和 18 (1943) 年 6 月 再度応召、仙山野砲隊に入隊
- ・昭和 19 (1944) 年 2 月 千島、エトロフ島に転進
- ・昭和 20 (1945) 年 8 月 現地にて召集解除
- ・昭和 23 (1948) 年 9 月 帰還
- ・昭和 23 (1948) 年 10 月より引続き、宮本卯之助商店勤務

*

私は「商人」でありますので、新入社員に、商品を販売する事に例えて、次の二つの事を、話します。

第一は、商品を、御客様に買っていただく時、商品が仮に「1万円」の販売価格であれば、「1万円」の価格相当の価値でなければなりません。御客様はその値を認めたとき、商取引が成立すると思うからです。人間の場合も同じ事と思います。

自分自身が、先で自分の価値を高める事に努力すれば、他人がその価値を、評価してくれると思います。

第二は、当社の主たる商品、太鼓、神輿は耐用年数が長いのです。一度取引きして、次に取引きする迄に、長い年月を要する事は珍らしくありません。

従って次にも、御客様になっていただく為には今日、信用のあるものを販売する事が何よりも大事であり、今日が20年、30年の後に、つながると思います。会社の永続的繁栄はこれらの事を理解する必要があると思います。以上の2点です。

入社以来55年の間此の考へを、常に念頭に置き行動して参りました。

研究内容

特にありませんが、先般「世界の太鼓資料館太鼓館」の完成を見ましたので、私としては、従来より関心のある「太鼓」の「製作年代」の記録に努力を続けて行き度く思っています。

現在の仕事の内容

一、太鼓の製造販売

- イ、全国の神社佛閣学校にて使用するもの
- ロ、宮内庁の雅楽演奏用の諸楽器
- ハ、能楽諸流派の楽器
- ニ、長唄
- ホ、国立劇場及能楽堂並に歌舞伎座等伝統芸能用の楽器類
- ヘ、民俗芸能に使用する太鼓及諸用具
- ト、市町村にて祭礼時に使用する諸用具

二、神輿神具類の製造販売

- イ、全国の神社にて祭礼時に使用する神輿
- ロ、神社の調度品、鈴、額、金具かざり等

商人として、信用のあるものを販売することが大事

(※1) 創立90周年記念誌 『紅の旗』 〈1988(昭和63)年9月2日発行〉

「今こそ伝えたい、希望と勇気を =OBから若駒への熱きメッセージ= 」より。

(※2) 中村出身。昭和8(1933)年卒。